

令和元年 11 月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年 11 月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

毎年恒例の「はっち市」が 11 月 22 日（金）～24 日（日）に八戸ポータルミュージアムはっちで開催されます。

全国から約 60 組のクラフト&フードが集結し、はっちがちっちゃな街になる「街中クラフト市」。今年のテーマは「笑い」です。

様々なワークショップやポカスカジャンによる Special Live も行われますので、みなさま、八戸にお越しの際は、「はっち市」にぜひお立ち寄りください。

◆詳細はこちらをご覧ください（「はっち市 2019」ホームページ）

<http://8ichi.jp/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5 階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸11月号 レポート

令和元年10月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	青森県産品イメージ調査 ～味よし 品質よし～
(2)	みちのく潮風トレイル 台風19号で大打撃
(3)	2018年調査 青森県の空き家数 過去最多
(4)	青森県民手帳発売 限定版に「南部菱刺し」を追加
(5)	市景観賞に「相馬邸」など3件決定

【産業】

記事	概要
(6)	八戸ワシントンホテル 名称変更し新たに出発
(7)	しんぼり「なんばんみそだんご」開発 ～甘味と辛さ 絶妙にマッチ～
(8)	「38(さば) DAYSチャレンジ」毎日サバ料理38日間挑戦
(9)	青森銀行、みちのく銀行 包括提携へ
(10)	八戸港水揚げ 2本柱のサバ、スルメイカ不振

【地域】

記事	概要
(11)	八戸水産高 イワシの缶詰作りに初挑戦
(12)	「全国路地サミット2019in八戸」開催 まちづくりの手法に理解を深める
(13)	“IKKOワールド”全開 「美」のディナーショー開催
(14)	信号機のない横断歩道での車の一時停止率 青森県が全国ワースト2
(15)	種差海岸の植生調査や保全活動に尽力 高橋晃さんが環境大臣表彰

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	歴史小説「かたづの！」著者・中島京子さんのトークイベント開催
(17)	全日本短歌大会 八戸市の佐々木絵理子さんが日本歌人クラブ賞受賞
(18)	マチニワに八戸三社大祭“特別”山車展示 ～秋でも祭り楽しんで～
(19)	プロ野球ドラフト会議 武岡龍世内野手(八学光星高) ヤクルトが6位指名
(20)	YSアリーナ八戸で第26回全日本距離別選手権開催

【行政】

記事	概要
(1)	<p>青森県産品イメージ調査 ～味よし 品質よし～</p> <p>青森県は、全国の主婦を対象に実施した2018年度の県産品ベンチマーク調査の結果を発表した。県産品のイメージに対する問いで「非常に当てはまる」「当てはまる」の回答率が最も高かったのは、「味がよい」の70.3%（前年比7.9ポイント増）。このほか、「品質がよい」68.9%（8.6ポイント増）など11項目も前年より数字を伸ばした。一方、「大間のマグロ」など県を代表する地域食材30品目のうち、25品目の認知度が“微減”。県産品のイメージは向上した一方、地域食材の知名度は伸び悩んだ。</p>
(2)	<p>みちのく潮風トレイル 台風19号で大打撃</p> <p>八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸を結ぶ「みちのく潮風トレイル」のルートが台風19号によって甚大な被害を受け、多くの区間で通行が困難となっている。岩手県北地方では、自然度の高いルートが人気だった久慈市で特に被害が大きく、歩道が大規模に陥没するなど被害は計34カ所に上る。東北の沿岸各地で観測史上最大の雨量をもたらした台風の猛威は、東日本大震災の被災地をつなぐ“復興の象徴”にも大きな爪痕を残した。</p>
(3)	<p>2018年調査 青森県の空き家数 過去最多</p> <p>青森県は、2018年に国が実施した住宅・土地統計調査の県内分の集計結果を公表した。総住宅数は59万2400戸、空き家数は8万8700戸で、共に過去最多を記録。総住宅数は2013年の前回調査より6100戸、空き家数は7500戸各々増加した。核家族化を反映して住宅が増える一方、独居などの高齢者が亡くなった際、持ち家が空き家になっているケースが多いとみられる。</p>
(4)	<p>青森県民手帳発売 限定版に「南部菱刺し」を追加</p> <p>青森県統計協会発行の2020年版県民手帳が10月25日、発売された。今回は通常版5色のほか、津軽こぎん刺しと南部菱刺しの模様を施した限定版2種類を加えた。今回発売した通常版のカバーは、青森の自然にちなみ、漁火ナイトブラック、十和田湖ブルー、もみじ山レッド、種差グリーン、さくらピンクの5色。定価は通常版600円、限定版800円（共に税込み）。県内の主な書店やコンビニのほか、東京都、大阪府のアンテナショップでも購入できる。</p>
(5)	<p>市景観賞に「相馬邸」など3件決定</p> <p>八戸市は10月25日、景観づくりに寄与する事例を表彰する第31回市景観賞を発表した。まちなみ空間部門は、多彩な植栽とともに年中バラが咲き誇るよう手入れされ、建物との調和も優れる「相馬邸」と、今後の公共施設の建築を考える上での見本として「市みなと体験学習館」が受賞。景観づくり部門は、日本の原風景が残る島守地区の自然や暮らしの全体を屋根のない博物館に見立てて、さまざまな活動を展開する「島守田園空間博物館運営協議会」が選ばれた。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>八戸ワシントンホテル 名称変更し新たに出発</p> <p>今年の4月に「リオ・コンサルティング」に経営権と不動産を譲渡した「八戸ワシントンホテル」は10月1日、リオグループとして再スタートを切り、ホテル名を八戸ワシントンホテル（旧八戸第2ワシントンホテル）から「ホテルグローバルビュー八戸アネックス」に変更し、新たにオープンした。現在は台湾からスタッフを採用し、中国人観光客への対応を強化。客室数は現在の126室を維持し、従業員は全員継続雇用した。また、中心街のメインストリートに面した改修中の旧八戸第1ワシントンホテルについては、1階のプロムナード部分を店舗などとして活用する方針で、客室数も増やし来年1月オープンの予定。</p>
(7)	<p>しんぼり「なんばんみそだんご」開発 ～甘味と辛さ 絶妙にマッチ～</p> <p>八戸市の菓子製造販売・卸業しんぼりが、コムラ醸造（五戸町）の「元祖コムラのなんばんみそ」を使った新商品「なんばんみそだんご」を開発した。今までになかったなんばんみそを使った和菓子を作ろうと、1年ほど前に着手。食べやすさや味の相性なども考慮し、団子と辛口のなんばんみそを使用している。一口サイズで手軽に食べられる商品だが、野菜の食感も楽しめるのが特徴。団子の甘味となんばんみその辛さがマッチした商品で、市内のスーパーや八食センターなどで販売している。希望小売価格は5個入り200円（税抜き）。</p>
(8)	<p>「38（さば）DAYSチャレンジ」毎日サバ料理38日間挑戦</p> <p>八戸前沖さばブランド推進協議会は10月25日、地元アイドル「シンデレラマジックEAST」にサバ料理を38日間食べ続けてもらい、毎日、会員制交流サイト（SNS）で発信する取り組みを始めた。初日は八戸市の「俵屋」で、看板メニューの「八戸銀サバトロゴけ丼」など4品を食した。サバの魅力をPRする「38（さば）DAYSチャレンジ」は昨年に続き2回目。取り組みは12月1日までフェイスブック、ツイッター、インスタグラムで紹介される。</p>
(9)	<p>青森銀行、みちのく銀行 包括提携へ</p> <p>青森銀行とみちのく銀行は10月28日、包括的な業務提携を結ぶ検討を始めることで合意したと発表した。店舗集約や事務共通化といったコスト削減の取り組みのほか、地元の有望企業の育成や企業の合併・買収支援、事業承継などのコンサルティング業務で協力する。個人向けでは顧客の資産形成や相続といった分野に力を入れる方針である。行員育成での協業や人事交流も探るとみられる。</p>
(10)	<p>八戸港水揚げ 2本柱のサバ、スルメイカ不振</p> <p>大中型巻き網船による八戸港へのサバの水揚げが、前年同期を大きく下回っている。昨年は10月末までの水揚げ量が1万2159トンだったが、今年は10月28日現在で2327トンと5分の1以下の水準。スルメイカも主力の中型底引き網船が2805トンにとどまり、過去10年で初の3千トン割れとなる恐れも出てきた。流通、加工と地元水産業の裾野を担う2魚種だけに、今後の影響が懸念される。</p>

【地域】

記事	概要
(1 1)	<p>八戸水産高 イワシの缶詰作りに初挑戦</p> <p>青森県立八戸水産高水産食品科の3年生が、初めてイワシの缶詰作りに取り組んだ。これまでサバやサンマ、ホタテなどの缶詰を製造しているが、ここ数年のサンマの不漁を背景に、本年度はイワシに切り替えた。しょうゆベースの味付けで、胴体を切った後、内臓を取り除き、缶の中で花の形に見えるよう工夫して身を詰めた。製品は10月19、20日の同校文化祭「水産デー」で販売された。</p>
(1 2)	<p>「全国路地サミット2019in八戸」開催 まちづくりの手法に理解を深める</p> <p>「全国路地サミット2019in八戸」が10月5日、三日町のマチニワなどで開かれた。サミットは毎年開催しており、北海道・東北地方での開催は初めて。この日は参加者が中心街各地を視察し、八戸の横丁などの魅力を探った。その後、マチニワに場所を移してシンポジウムを開催。黒石市や函館市などでまちづくりに取り組む関係者が、両市で行っているまち歩きツアーなどの活動事例を紹介した。青森県内外から約90人が参加し、路地や「横丁」を活用したまちづくりの手法について理解を深めた。</p>
(1 3)	<p>“IKKOワールド”全開 「美」のディナーショー開催</p> <p>「美のカリスマ」として知られ、多方面で活躍するIKKOさんのディナーショーが10月15日、デーリー東北新聞社と八戸プラザホテルの主催で開かれた。ショーはIKKOさんによる歌とダンスで幕開け。おなじみの軽妙なトークに加え、美容テクニックなども披露し、訪れた市民ら約420人を独自の“IKKOワールド”で魅了した。最後は、歌いながら客席に下りて握手や写真撮影に応じるなど、会場の熱気が最高潮の内に幕を閉じた。</p>
(1 4)	<p>信号機のない横断歩道での車の一時停止率 青森県が全国ワースト2</p> <p>日本自動車連盟（JAF）青森支部は、信号機のない横断歩道を歩行者が渡ろうとしている場面で、車が一時停止するかどうかの調査結果をまとめた。一時停止率が最も高かったのは長野県の68.6%で、次いで静岡県52.8%、兵庫県43.2%と続いた。一方、停止率が低かったのは、三重県3.4%、青森県4.4%、京都府5.0%の各府県。青森県は全国平均の17.1%を大幅に下回り、全国ワースト2だった。</p>
(1 5)	<p>種差海岸の植生調査や保全活動に尽力 高橋晃さんが環境大臣表彰</p> <p>長年にわたり、三陸復興国立公園・種差海岸の植生調査や保全活動に取り組んでいる北奥羽自然史研究所所長の高橋晃さん(65)が、9月に環境大臣表彰（自然公園関係功労者）に輝いた。高橋さんは大学時代に種差海岸を研究した経験があり、高校教諭になった後の1982年から本格的な植生調査と保全活動をスタート。その後、市文化財審議委員や保全活動の旗振り役として重要な役割を担い、2014年に上皇ご夫妻が種差海岸を訪れた際には案内役を務めた。自然公園の保護と適正利用を推進してきた顕著な功績が認められた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>歴史小説「かたづの！」著者・中島京子さんのトークイベント開催</p> <p>江戸時代初期の八戸と遠野の女領主・清心尼（せいしんに）を描いた歴史小説「かたづの！」の著者で、直木賞作家の中島京子さんによるトークイベントが10月6日、物語の舞台となった八戸市の史跡根城の広場主殿で開かれた。「かたづの！」は清心尼の生涯を、かっぱやカモシカの霊が宿った「片角」などファンタジーの要素も交えて描いた2014年の作品。八戸ブックセンターによる市制施行90周年記念事業で、大宅壮一ノンフィクション賞作家梯（かけはし）久美子さんによるインタビューの形で実施。市内外から250人が詰め掛け、清心尼の時代の雰囲気再現された主殿前で2人の話に聞き入った。</p>
(17)	<p>全日本短歌大会 八戸市の佐々木絵理子さんが日本歌人クラブ賞受賞</p> <p>第40回全日本短歌大会で、八戸市の短歌グループ「創 短歌クラブ」の佐々木絵理子さん(61)が、三賞の日本歌人クラブ賞に輝いた。この大会は日本歌人クラブの主催で毎年行われ、今年は1660首の応募があった。佐々木さんの作品は〈ここぞって時にわらわら液化するもろい地層がわたしにはある〉。人間の目に見えない心理的な弱さを、地表からは見えない「もろい地層」という比喻で見事に表現した。</p>
(18)	<p>マチニワに八戸三社大祭“特別”山車展示 ～秋でも祭り楽しんで～</p> <p>三日町のマチニワで、八戸三社大祭の山車組有志が新たに制作した特別版の山車が10月14～17日まで展示された。9月につがる市で開かれた「あおもり10市（とし）大祭典」でお披露目するために制作されたもので、オリジナルの山車を地元でも見てもらおうと、「八戸横丁月間酔っ払いに愛を2019」のイベントの一環として展示した。源平争乱の壇ノ浦の戦いで敗れた平知盛が、亡霊の姿で源義経一行に襲い掛かる場面を題材に選び、タイトルは「知盛推参」。夜には祭りムードを盛り上げのお囃子も披露され、中心街を訪れた市民や観光客らが季節外れの三社大祭の魅力を楽しんだ。</p>
(19)	<p>プロ野球ドラフト会議 武岡龍世内野手（八学光星高） ヤクルトが6位指名</p> <p>プロ野球の新人選手選択会議（ドラフト会議）が10月17日、都内のホテルで開かれ、八学光星高の武岡龍世内野手がヤクルト6位で指名された。同校選手のヤクルトの指名は、2011年の川上竜平外野手以来となった。武岡内野手は徳島県出身。走攻守そろった選手で、1年からベンチ入りし、2年秋からは主将を務め、3季連続甲子園出場、今夏の甲子園8強入りの原動力となったほか、U-18日本代表にも選出された。</p>
(20)	<p>YSアリーナ八戸で第26回全日本距離別選手権開催</p> <p>八戸市立屋内スケートリンク「YSアリーナ八戸」で10月25～27日、完成後初のスピードスケート大会となる第26回全日本距離別選手権が行われた。2018年平昌（ピョンチャン）冬季五輪メダリストの小平奈緒選手や高木美帆選手らによる本気のレースを一目見ようと、平日にもかかわらず3千人超が詰め掛け、国内トップ選手の一流の滑りに歓声と惜しめない拍手が送られた。また、最終日の競技終了後には入賞選手らとファンの交流イベントも行われた。</p>